

# しすい

編集・発行/酒々井町議会

〒285-8510 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-11 ☎043-496-1171

<http://www.town.shisui.chiba.jp/contents/gikai/>



酒々井小学校

100周年ふれあい集会

## 6月定例会 7月臨時会 のあらし

詳細については12ページ

6月定例会は6月3日から10日間の会期で開催されました。  
町長より議案4件、議員より発議案2件が提出され、審議した結果議案4件、発議案1件がそれぞれ原案のとおり可決されました。  
一般質問は12名の議員が、2日間にわたり行いました。  
また、臨時会が7月16日に召集され、議会推薦の農業委員会委員を決定しました。



6月定例会  
7月臨時会

2名を農業委員会委員として……………P2

南部地区新産業団地についてなど 行政報告 ……P4

町政を問う 議員12名が一般質問 ……P5~P11

一般会計補正予算など4議案承認・可決



町無形民俗文化財に指定されている「馬橋の獅子舞」が7月19日に開催されました。一般会計補正予算で財団法人自治総合センターからのコミュニティ助成事業により、獅子舞保存のため老朽化した太鼓等の備品が整備されました。

平成20年6月議会で可決された議案は次のとおりです。

専決処分の承認を求めることについて

地方税法等の一部を改正する法律の公布に伴い、納税者に実害が及ばないようにするため、町税賦課徴収条例、町都市計画税条例、町国民健康保険税条例の一部をそれぞれ改正したことについて承認を求めます。

一般会計

一般会計補正予算  
(第1号)

補正の主な内容は、機関の移行に伴って必要となる経費、補助事業の採択、また施設改修等、緊急性を伴う経費についての補正です。

【報告】

一般会計予算繰越明許費繰越計算書について

「ちびっこ天国修繕工事」、「酒々井ICアクセス道路整備事業」、「中川流域防災事業」、「プリミエール酒々井中央監視装置修繕」の4事業について、翌年度に繰り越す額が確定したので、報告するものです。

水道事業会計予算繰越計算書について

「酒々井地先町道1B 112号線他舗装本復旧工事」並びに「1号取水井揚水管等修繕工事」について、予算繰越の処理を行ったので報告するものです。

【選挙】

印旛利根川水防事務組合議会議員の選挙

任期満了に伴う選挙の結果、小坂泰久町長が再任されました。

議員発議によるもの

後期高齢者医療制度の見直しを求める意見書の提出について

平成20年7月臨時議会で審議された議事は次のとおりです。

農業委員会委員の推薦について

農業委員会の議会推薦委員に、次の方を推薦することになりました。

- 石橋 恵美子氏(伊篠)
- 高梨子 美津江氏(墨)

議案と議決結果(町長提出のもの)

番号	件名	付託委員会	本会議の議決結果
1	専決処分の承認を求めることについて	なし	原案承認
2	専決処分の承認を求めることについて	なし	原案承認
3	専決処分の承認を求めることについて	なし	原案承認
4	平成20年度酒々井町一般会計補正予算		原案可決

は全員賛成、 は賛成多数、 ×は賛成少数です。( )は総務・教育民生の各常任委員会に担当分野を付託しています。

発議案と議決結果（議員提出のもの）

は全員賛成、 は賛成多数、 ×は賛成少数です。

番号	件名	提出者	本会議の議決結果	
1	後期高齢者医療制度の見直しを求める意見書の提出について	篠田 誠 議員 他 3 名	原案可決	
2	後期高齢者医療制度をはじめ、高齢者医療制度改悪の中止、撤廃を求める意見書の提出について	地福 美枝子 議員 他 3 名	原案否決	×

請願の審査結果

は全員賛成、 は賛成多数、 ×は賛成少数です。

請願番号	件名	請願者名	付託委員会	議決結果	
請願第2号	中川の抜本的な治水対策促進についての請願書	トヶ崎自治会長 安藤 文雄	経済建設	採択	
請願第3号	後期高齢者医療制度を中止し、撤廃を求める意見書採択の請願	全日本年金者組合千葉県本部 酒々井支部 支部長 石井 幸次	教育民生	不採択	×

平成20年度 補正予算額

（単位：千円）

会計名	補正前	6月補正額	補正後
一般会計	5,003,056	14,125	5,017,181

議案・反対討論(要旨)

引地修一議員

議案第4号の一般会計補正予算について反対する。

総務費のいわゆる駅前交番の補正であるが、3月議会の当初予算で350万円が上程され可決された。これが今回同額に等しい349万7千円の補正が出てきた。縷々経過については説明してもらったが、本来、当初予算を計上する時はきちんとした精査のもとに計上するべきである。同額の補正予算が出てくるのは、当初予算編成時の審議が甘いのではないかと甚だ疑問である。

また、本当に予算が必要な分野、例えば福祉関係とか沢山あると思うが、平気で当初予算と同額の350万円がどんと出てくるのは、甚だ甘いんじゃないかと反対する。

委員会視察について



給食センター視察

6月定例会中の6月5日(木)に開催された教育民生常任委員会では、委員会開催前に、学校給食センターを視察しました。センター長や管理栄養士から学校給食の現状や安全な食材の確保についての取り組みなど説明を受けた後、地元産の食材などを使用した学校給食の試食も行いました。

町長より4件の行政報告がありました。(要旨)

酒々井南部地区新産業団地について

酒々井南部地区新産業団地については、都市再生機構とオリックス不動産株式会社とで土地譲渡予約契約が締結されました。

事業計画の方針としては、商業施設だけでなく、長期的なビジョンで、環境問題などを含め四半世紀の事業展開を目標とし、研究開発など、これからの産業を複合していくイメージを持って、新しい発想の中で事業を手がけ、金融と不動産のネットワークを活かし、地域活性化に繋がる方向で挑戦していきたいのとことでした。

土地区画整理事業については、5月に地権者説明会が開催され、国土交通大臣に事業計画認可申請をしており、6月には事業計画案の縦覧が行われる予定です。

町としては、事業化に向け

てできる限り協力していきたいです。

酒々井ちびっこ天国の運営について

酒々井ちびっこ天国については、本年度よりプール事業のほかに通年型健康づくり事業として4月26日に「健康ひろば」が開園しました。

施設の概要は、スタジオ、トレーニングルーム、多目的室、更衣室、無料休憩所を整備しました。

スタジオでは、機能改善教室、健康体操教室、ナチュラヨガ、脂肪燃焼エクササイズなどのプログラムが提供され、トレーニングルームには、ランニングマシンをはじめ、筋力トレーニングマシンやバイクトレーニングマシンが設置されています。

現在の利用状況は、5月末までのべ514名、1日平均19名の利用となっており、継続的な利用ができる1ヶ月定期券の利用は98名となっています。

プール事業については7月19日～8月31日までの44日間を予定しています。

今後も、住民及び利用者のニーズに対応できる施設運営を目指し、更なる事業展開ができるよう指定管理者と協議を進めていきます。

中川流域防災事業について

中川流域防災事業については「中川流域水循環系再生計画策定委員会」を昨年発足、本年3月まで計5回の議論を重ね、4月21日に中川流域の総合的な治水対策の基本的な考え方についての提言を頂いたところです。

町民生活の「安全・安心」を確保するためには、効果的・効率的な中川の整備を実施していくことが不可欠であることから、この提言を受け庁内検討会を設立し、検討を進めています。

主な検討事項としては、河川整備の水準、事業の優先順位、出水時における危機管理のあり方、健全な水循環系の再生等を主な論点に掲げて検討を行っています。

また5月23日には、中川の抜本的な治水対策促進につい

て3度目の請願書が提出されたところであり、町としては今後の事業実施に向けて当該庁内検討会の意見を踏まえた上で、説明会等を通じ関係住民や議会との連携を密にして合意形成を図りながら、中川の治水整備を実施していきたいと考えています。

酒々井町体育館の耐震診断結果等について

酒々井町体育館は、昭和41年3月に建設され、当時の建築基準を満たしていましたが、平成19年度に実施した耐震診断では、「倒壊の危険性が高い」という範囲に入るとの診断結果になりました。

当施設は生涯スポーツの核となる施設で、代替となる施設がないことから、改修までの当面の対策として、耐震診断の結果及び緊急時のマニュアルを作成し利用者に周知の徹底を図るとともに、定期的な点検を行うなどリスクの軽減を図りながら、今後も施設を活用していきたいと考えています。

「こども課」の取り組みについて  
福島県川俣町議会が視察来庁

7月4日(金)に福島県川俣町議会の総務文教常任委員会委員が、こども課の取り組みについて視察するため来庁されました。町担当者から当町での子育て支援の取り組みについて説明後、活発な意見交換が行われました。

また、すいあいあいルームで、乳児と保護者を対象に開催されていた「びよびよくらす」も併せて視察されました。



川俣町議会視察

町の考え

# そこが知りたい



一般質問は、町の行財政全般にわたって、執行機関に疑問点をただし見解を求めるものです。

6月定例会の一般質問は、11日と12日の2日間に12名の議員が、中川治水対策、後期高齢者医療制度など、行政全般にわたり今後の対応策などについて、活発な質問を行いました。

「議会だより しすい」に掲載されている内容は紙面の都合上、要点のみとなっています。詳細については、町立図書館（プリミエール酒々井内）で会議録をご覧ください。また、インターネットでもご覧いただけます。6月定例会の会議録は、9月上旬以降、閲覧することができます。

問

今後の酒々井町シルバー人材センターと町の係わりについて

答

団体の円滑な運営の支援等を行っていく

御園生 浩士 議員

問 高齢者の雇用問題について、度々質問をしてきた。高齢者事業団を核としてシルバー人材センターを設置するよう提言もしてきたが、結果として「酒々井町高齢者事業団」が名称変更し、「酒々井町シルバー人材センター」となり、5月31日には設立総会が開催された。シルバー人材センターとして一歩を踏み出したが、その経緯と長くひとり立ちして歩んでいくために、今後、町との係わり合いについて伺う。

町長 酒々井町高齢者事業団は、平成5年6月に設立され、また酒々井町シルバー人材センター設立準備委員会が平成17年9月に有志により発足した。この2団体は、高齢者の雇用対策として目的を同じくするものであるため、平成19年2月より一本化に向けて協議を重ねてきた。その結果、本年4月1日より、酒々井町高齢者事業団が、酒々井町シルバー人材センターに名称変更し、5月31日には、法人化に向けた設立総会を開催したところである。町は、法人化に向けた組織づくりなどの支援が最優先と判断し、住民協働課

において団体の円滑な運営を支援し、千葉県シルバー人材センター連合会との連絡・調整等をさせて頂く。

各種料金の改定について

問 昨年より原油価格の高騰により、ガソリン、食料品等、生活全体の値上げラッシュとなった。その様な中で町の給食費を値上げするのか伺う。また、昨年10月に公共施設利用料が改定されたが、一部高齢者に対しては、コミュニティプラザの入浴無料券などを配布すべきと考えるが町の考えを伺う。

町長 コミュニティプラザ浴場の使用については検討していきたい。

教育次長 食料は昨年と比較して、パンや牛乳等が上昇しているが、米は値下がりしている。平成15年度からは全体の7割を米飯給食として実施しており、食材発注では複数の業者から見積りを取り、安価で安全な食材の確保に努めている。食材の費用全体から見ると給食への影響は少なく従来通りの献立を提供できるものであるが、先行き不透明な価格動向であり、慎重に給食事業の運営を行っていく。

町の情報公開についての疑問点

**答** 工夫を凝らしてわかりやすい広報に努める

菊地 宏 議員

問 現在、日本の国が私たち「国民」を抜きにした、いわば「説明不足」により物事を進めている。私たちの町にも非常に似た状況が創り出されている。「住民は放っておけ」という民主主義の原則から大きく乖離した今の状況を改めるために、町の情報公開は慎重に進めていただきたい。住民を抜きにした議論は、この町を良くしていくこととする考え方と矛盾しているが、町の考えを伺う。

南部地区開発の新しい段階での進捗状況について、当初の案と比較して詳しく説明して欲しい。

中川の治水対策のこれまでの経緯を詳しく説明して欲しい。特に中川流域水循環系再生計画策定委員会での意見に対する町の方策について、説明して欲しい。

後期高齢者医療問題について、町の対応方針と現状について伺う。この制度の反応者数、町の通知の仕方、その反応、医療費は以前と比べて上昇したのか、下がったのか等々。

町長

進出事業者が変わっているが、その内容については現在のところ示されていない。町民への広報については、工夫を凝らしてわかりやすい広報に努めたい。

国民健康保険の加入者が新制度に移行した場合、負担額は少なくなるが、社会保険等の被扶養者は軽減措置があるが負担増となる。現在、厚生労働省において、特に低所得者層に配慮した見直しを検討されており、より良い制度に改善されることを期待する。

参事

委員会から町へ、提言書が提出され、これを受けて庁内に担当参事、関係課長からなる庁内検討会を設置し、具体的な検討を行っている。今後も議会をはじめ、関係住民の方々へ逐次報告し、中川の整備を図っていききたい。

住民課長

問い合わせは130件程あり、その内苦情は2件であった。新制度については昨年から町広報、広域連合だより、リーフレット等で周知を図った。

新たな財源確保として町の封筒等に広告を入れてはどうか

**答** 担当に指示し、広告掲載を検討させている

平澤 昭敏 議員

問 新たな財源確保について伺う。

財源確保として、広報二ユーシすいやふれ愛タクシー等による広告収入の成果がでていますが、さらなる財源確保として、公共施設の命名権を企業に販売することにより、安定した収入を確保できると考えるが町の考えを伺う。

町の封筒や庁用車等に広告を入れるなどの財源確保を提案するが如何か。

町長

命名権は、企業の知名度を高めるなどの効果があるとして、主に都市部の大型公共施設において増加している状況であり、当町の公共施設を利用したイベント等の開催頻度等を動案すると、仮に命名権を導入しても成果が得られないのではないかと考えている。

新たな財源確保の観点から、担当に指示し、封筒等に広告掲載を行えるように検討をさせている。

ゴミ問題について

問 ゴミ問題について伺う

ゴミ処理が突然の有料化にしないためにも、ゴミの抑制やゴミ処理経費などを住民にPRする必要があると考

えるが町の考えを伺う。

酒々井町と佐倉市のゴミ袋の販売価格は佐倉市の方が安い。これは製造コストに原因があるのか伺う。

ゴミ袋を佐倉市との統一や広告掲載により、販売価格を低く抑えられると考えるが如何か。また、実施主体を清掃組合で行うことにより、コストも削減できると考えるが町の考えを伺う。

町長

町では、3R運動を推進し、ゴミの減量化等に取り組んでいる。今後もゴミ問題の意識の高揚に努めていく。

当町のゴミ袋の販売量は佐倉市に比べて絶対数が少ないことから、販売価格が割高になっていると思われる。

ゴミ袋を清掃組合で統一して製作することになれば、生産コストも下がり、佐倉市及び当町にメリットがあるものと思われる。広告掲載については、他市町村の事例を研究していく。また実施主体を清掃組合とするには、佐倉市及び清掃組合との調整が必要となるため、3者による協議、検討をして参りたいと考えている。

**問** 後期高齢者医療制度により国保税率はどうなるのか

**答** 交付金が新設されたことにより、値上げしないで済んだ

篠田 誠 議員

問 後期高齢者医療制度について伺う。

後期高齢者医療制度が始まったことにより、本年度の酒々井町の国民健康保険税率はどうなるのか。

75歳未満の方には人間ドックの補助金があるが、後期高齢者医療制度に加入する75歳以上の方には人間ドックの補助金がない。病気の早期発見のためにも一部でも補助金をだして欲しいが町の考えを伺う。

国民健康保険税率を10%程度値上げせざるを得なかったが、後期高齢者医療制度が始まったことにより値上げしないで済んだ。これは、65歳から74歳の方に対する前期高齢者の財源調整交付金が新設されたことが要因である。

75歳以上の多くの方は、医療機関を利用しており、その中で定期的な検査等を受けているため対象外となった。しかし、質問の趣旨も理解できるので、今後、千葉県後期高齢者医療広域連合に要望していきたい。

中川治水対策について

問 中川治水対策について伺う。

水位計算結果のとおり、京成軌道下と比較して、県道宗吾酒々井線より下流部のボックス区間に余裕がないのであれば、ボックスを大きくする方が近隣の状況から工事がしやすいと考えが如何か。

水害地域に対して、県は公有地等に貯留浸透施設、浸透枳の設置の推進をするための条例策定を模索していると聞いたが、そのような動きがあるのか伺う。また、条例において、一般家屋に浸透枳、浸透トレンチの設置指導をするとのことだが、指導の対象は新築以外にも既存住宅も含むのか伺う。

印旛村方面から来る町道下のボックスを改修するには道路を遮断し、迂回路も必要となる。周辺には家屋があり、地盤も悪いなど、難工事である。また、ボックスだけを広げて上流の洪水対策にはならない。

ヒートアイランド化対策等の面から、県は条例化を進める方針である。指導が新築だけ、または既存住宅も含めるのかは、議論があるところである。

**問** 成田空港圏の進展とともに町の活性化を

**答** 空港のポテンシャルを活かしたまちづくりを進める

川島 邦彦 議員

問 第3期基本計画との整合性を伺う。

成田空港は三〇周年を迎え旅客数・貨物量とも増加の一途であり、平行滑走路の供用開始を控え就労者を含めた町への波及効果の認識を伺う。

空港圏である酒々井ICの付加価値を高める活性化の展望及び目標人口の現状認識を伺う。

町長

平行滑走路の供用開始と時を前後して、酒々井IC開設が予定されており、新たな産業集積を図るため南部地域での新産業団地の整備促進を図っている。今後とも空港との共存共栄を図り、空港のポテンシャルを多面的、広域的に受けとめたまちづくりを進めていく。

酒々井ICを核とした道路ネットワークを構築することにより、周辺地域を含めた広域的な活性化に努めていきたい。また目標人口は、人口増に繋がる要因が見込めないが、南部新産業団地の整備等により、定住の促進や生産年齢人口の増加が期待される。

酒々井町ホームページについて

問 インターネットで生活情報収集の

スタイルが定着する中で、町ホームページ充実の認識を伺う。また昨年、ボランティア団体等の掲載を検討するとした現状を伺う。

町長 トップページは、誰でも気軽に利用できるよう配慮して作成している。今後実用的なホームページにしていく。ボランティア組織を紹介するコンテンツについては、関係機関と調整して、掲載の整備を進めていく。

特定健診について

問 本年度から実施される特定健診に伴い、診療機関には「保健指導」により、受診データから客観的に生活習慣を見つめ直す機会として効果が期待される。受診率の目標等を伺う。

町長 目標値については、国の策定指針に基づき設定しているが、目標達成のため、健診は無料とし、日程を前期後期の2回に分けた。

「健康ひろば」について

問 ちびっこ天国「健康ひろば」についてサービス向上の課題等を伺う。

産業課長 利用者から意見を取り入れながら検討していきたい。

**問** 南部地区新産業団地の全体計画を聴取しているのか

**答** 開発行為を申請する時に明示される

引地 修一 議員

問 県事業であるＩＣ事業について、用地買収と全体工事の進捗状況を伺う。

オリックス不動産の全体計画について、町は都市再生機構（ＵＲ）から聴取しているのか。またどの位の規模なのか。

大規模集客施設を誘致する為、町とＵＲはトランペット型ＩＣを県へ要望したが、オリックスの計画はこの構想と符号するのか。

町長

土地区画整理事業の認可申請中であり、開発行為を申請する時に計画が明示されるが、まだ町にきていない。

広域交通ネットワークとして酒々井ＩＣが必要であり、事故防止の観点からもトランペット型を要望した。

まちづくり課長

今年度、残用地の用地取得、文化財調査の実施、インター本体工事の委託等が予定されている。

住基ネットについて

問 住基ネットワークが構築されて以来、住基カードの取得者の各年度毎の数を伺う。

ネットワーク構築時から現在までのコンピュータ関連等の諸経費について、各年度毎の費用を伺う。

町長

合計４１５枚を発行、現在３７２枚が運用されている。

平成１３年度から平成２０年度までの合計で３５，３９１，５９４円、年平均約４４３万円である。

学童保育について

問 大室台小学校の大ちゃんクラブの現況について伺う。

酒々井小学校の学童クラブの進捗状況について伺う。

学童保育中の事故等の例はあるか。また事故が発生したらどういう運営体制になっているのか伺う。

町長

登録児童は４２名で常時４名の指導員が保育にあたっている。

施設の改修を児童の夏季休業中に予定している。

病院に行くというような事例はない。事故等が発生した場合には、安全管理マニュアルに沿って対処する。

**問** 住民満足度向上の為の財源捻出と地域活性化への推進策について

**答** 新たな取り組みとして、ハーブガーデンにハーブ喫茶の準備をしている

原 義明 議員

問 近年、住民満足度向上に取り組みをとわれている。住民サービス向上、子育て支援、企業誘致による雇用創出からの人口増加における町の活性化等、自治体を選択する時代から住民満足度向上には、財源捻出や活性化が常に避けて通れない問題である。既存資源の見直しや基本計画に掲げた項目の再吟味は必要なスキルと次の３点を伺う。

中心市街地活性化の具体的進捗状況と容積率３００％アップに変更する意向について伺う。

ハーブガーデン修復とハーブ喫茶の推進状況について伺う。

町長

J R南酒々井駅前管理地を貸駐車場にする意向について伺う。

容積率の引き上げは、イコール建築物の高層化である。近隣商業地域の容積率を引き上げるとは、住宅地への日照権の影響や都市防災の観点から問題があり、非常に難しい。

新たな取り組みとして、老朽化が進んだハーブガーデン建屋の修復と併せ、ハーブ関連の飲み物や軽食が楽しめるハーブ喫茶増設を秋頃までに建設できるように準備している。

町長

駅前広場や周辺の道路整備等を踏まえ、公有地活用検討委員会で有効的な利活用を検討する。

酒々井町シルバー人材センター設立に対する行政の役割と責務について

問 シルバー人材センターは、県連合会に未加入で活動しており、資金面や保険面等早急にクリアすべき点が多く見受けられる。高齢法に沿った国の施策を取り入れている点から法人化に向けてのプロセスは、行政主導で早急に推進することが基本と責務であり、連合会加入予定日と具体的支援策を伺う。

町長 地域の働く意欲のある高齢者の自主・自立・協働・共助のもと自主的組織として発足され心強く感じている。会計管理者 県連合会に加入するには、実際に活動して、会員を養えるような実践的な活動計画がないと、仮に加入しても脱退という結果になってしまう。計画が煮詰まった段階で、県連合会加入の手続きが出来るのではないかと考えている。

**問** 年金天引きをやめ、普通徴収にするべきである

**答** 国は口座振替等も選べるように検討している

地福 美枝子 議員

問 後期高齢者医療制度について伺う。

自治体の判断で保険料を天引きにしないこともできると聞く。年金でやり繰りしている方から強制的な天引きはせず、普通徴収にすべきではないか。制度に関しての説明会を行うべきと考えるが町の考えを伺う。

住民課長 基本的には年金天引きであり、自治体の判断で天引きを延期することはできない。しかし国では年金天引きだけでなく、口座振替等も選べるように検討していると聞いています。

当面は窓口、電話等で対応しているが、団体等から話があれば出向いて説明させていただきます。

火災報知器設置について

問 設置義務化された火災報知器を70歳以上の独居、老々世帯に無料で設置はできないか伺う。また、その場合の予算額はどのくらいになるのか。

町長 1世帯に1台を設置した場合、290万円程度の予算が必要となるが、補助対象者の生活実態の把握やそ

の枠組みについて検討すべき課題があることから調査していく。

JR酒々井駅について

問 高齢者や障害者にとってJR酒々井駅にエスカレーター、エレベーターの設置に強い要望がある。設置への進捗状況について伺う。

まちづくり課長 エレベーターの設置を検討しており、設置時期については、平成23年度を目途にJRと協議を進めていく。

乳幼児医療費について

問 県は、乳幼児医療費を就学前まで拡大する。しかし、所得制限があることから、町では所得制限なしで実施してほしい。また、その場合の予算額について伺う。

町長 県の改正案は、就学前までの助成対象の拡充、本人負担分の増額、所得制限を設ける設定となっているが、正式な通知がなく、当町においては県の動向を注視している。また、町において、所得制限を設けずに、就学前までの乳幼児医療費を無料とした場合、約4千5百万円程度の支出が見込まれる。

**問** 中川の平成16年洪水に対応できる対策を

**答** 対応するための手法を検討していく

齊藤 博 議員

問 平成16年度の洪水にも対応できる対策こそ被災関係者の願いであり、半分の被害は残ると公言し、その解決を15年以上も先延ばしする対策を進めようというのは行政として誠に冷たいものである。町長は、「調節池を少し深くすれば16年洪水に対応できる」と発言した。今頃になって、なぜそのような発言が出されるのか理解に苦しむが、可能であるなら、技術的なデータや根拠を明確にして他の手法との比較を含め地元の方々によく説明し、了解を得た上で、ICアクセス事業より高い優先順位で是非実現してほしいと考えるが町の考えを伺う。

町長 16年洪水に対応するには調節池を少し深くするだけが方法ではなく、調節池の容量を増せばという意味である。調節池を深く掘る又は嵩上げをするなど容量増加には様々な手法があるので、費用対効果から検討したい。ICアクセス事業は町の将来に重要な事業であることから、中川流域防災事業とのバランスをとりつつ状況変化に柔軟に対応し推進すべきと考えている。

南部地区開発事業について

問 町の貯金は2年間で1億5千万円が減り、これからの3年間も赤字で2年度末には貯金はゼロに近くなると思う。南部開発に14億円以上の予算を投入するにもかかわらず「その税収は期待しない」と発言している。事業に賛成する根拠がなくなり、高齢者対策などの福祉施策の充実、借金の返済もできなくなると考えるが如何か。

町長 まちづくり交付金事業の期限は平成18年度から22年度までの5年間であり、その間に投資したものは、直ぐには効果が表われない。なぜなら都市再生機構の計画では平成24年までに造成が終わり、それ以降に建物が建ち、課税され税収となることを見ると、5年くらいの期間がある。この期間の中で税収がなくても必要な社会資本整備は行っていく。町の税収構造では法人からの税収が少なく、今後団塊世代が退職する時代になった時に町は危機を迎える。その時には産業施策が必要であり、そのために南部地区開発は必要と認識している。

問 中川治水事業について

答 早急に調節池の整備を行なっていきたい

佐藤 修二 議員

問 中川治水対策関連予算について

は、3月議会において修正案が可決され、事業予算が凍結となり、過去、幾度の水害に見舞われているトケ崎地区住民にとっては「寝耳に水」の驚きと思ふ。地元としては10数年前より水害対策に関する請願書を提出しているが、実現に至っていない。この様な中で、平成16年9月に発生した集中豪雨による大洪水は、トケ崎地区に大きな被害を及ぼしている。地元住民としては、毎年雨期には水害の不安を背負つての生活であり、行政や議会は住民の生命や財産を守るため、早急な災害対策の実施が必要であり、次の点を伺う。

3月議会会で治水事業予算が凍結されているが、再度起こり得る災害に対し、早急な予算措置が必要と思われるが、町の考えを伺う。

トケ崎地区水害は、既設水路に同時間帯に大量の雨水が流入し浸水被害を起こしており、上流部に一旦雨水を受容し水量調整が出来る7万2千トン程度の調節池築造が必要と思われるが町の考えを伺う。

町長

町では平成19年度までに中川流域の基本設計をはじめ、地形測量や地質調査を終え、京成線橋梁から国道51号までの護岸の嵩上げ工事をするなど緊急な被害軽減策を実施した。しかし、10年に1度程度発生する大雨時の、現在約半分程度の流下能力であることを踏まえ、治水対策事業を推進することが急務であると認識している。地元関係者へ説明を尽くすとともに議会、町民のご理解を得る中で、早急な予算措置を考えている。

中川流域防災事業における調節池

容量の約5万立方メートルは、健全な水循環系の再生を踏まえて流域での貯留浸透効果を見込み、また適切な河道への分担を行なった上で算出した必要容量である。16年洪水時のトケ崎地先の氾濫量を踏まえて、調節池の満杯容量を7万2千立方メートル程度とすることも考慮したい。洪水のピークをカットし下流域への洪水被害のリスクを軽減させることが重要であることから、早急に調節池の整備を行っていきたい。

問

中川水害対策について、京成電鉄となぜ協議をしないのか

答 京成線路下の拡幅は、下流から一連で整備しなければならぬ

竹尾 忠雄 議員

問 町長はこれまで一方的に調節池の

事業化に向けて進めてきた。水害の原因については、これまでの歴史的経過で多くの方が京成線路下の拡幅を願っている。町長は京成と一度も協議をしないで議会では「京成線路下拡幅は6億円から10億円必要」、京成となぜ協議をしないのか。行政として京成と協議するのは当然ではないか。先に調節池ありきでなく住民の合意を得て事業を進めるべきと思う。また、宗吾機場の能力アップが一番の要だと私は思うが、町長の考えを伺う。

町長 京成橋梁の架け替えは、町が全部経費を出さなければならぬ。また、拡幅すると上流での水害を下流にもつてくるだけで、下流から一連で整備することが必要となり、町は調節池ありきではなく、総合的な検討をした中で、先ず調節池の整備を行うことが最善策と判断している。宗吾機場の能力の問題は、農林事業でやれば町の負担が伴う。根本は治水対策であり、そこで国土交通省の利根川新放水路計画の位置付けの中でやるうとしていく。

南部開発関連について

問 3月議会では町は国道296号小川ピーナツ商店からJR酒々井駅までの道路新設を公表した。町の説明では、南部からのシャトルバスを通すために3億円の事業費で、平成22年度までに完成させるとのことであるが、南部開発の事業計画もないのに、新たな道路を造るべきではないと思う。

町長 県施行のICに合わせて中心市街地からのアクセス向上と、酒々井中学校の通学路としての安全対策を図る重要路線と考え、極力町の負担軽減を図るため、国のまちづくり交付金事業を活用し、最終年度である平成22年までに整備を予定している。

墨地域の盛土事業について

問 一年近く無許可で行なわれているが、町の対応について伺う。事業者は誰なのか伺う。

町長 当該区域の確認の立会いを幾度も求めてきたが、これに応じないため、引き続き県との連携を強め、現地立会いを求めて行く。正確な事業者名については、承知していない。

**問** 地球温暖化の問題は、急速な関心を深めている

**答** 一人ひとりの意識や消費行動が社会を動かす大きな力

岩澤 正 議員

問 町長の政治姿勢について何う。

地球温暖化の問題は急速な関心を深め、色々な取り組みが行なわれようとしている。それぞれの地域で取組めることを進めることが、今、日本を動かす一番の道だと思つが如何か。

南部地区開発によつて町長は自主財源の確保、雇用の拡大、地域経済の活性化と言つて、オックス不動産の計画が発表されないのに、税金を投資し道路を造ろうとしている。社会資本の整備と言つて進めるのなら、どのような効果があるのかを示すのは、当たり前な事ではないかと思つが如何か。

町長 我が国だけでなく世界共通の問題である。私たち一人ひとりの意識や消費行動が社会を動かしていく大きな力となることから、町民意識の高揚を図るなど温暖化防止対策に取組む。

町は企業経営の感覚からインフラ整備をしているものであり、予算は議会の承認を得て進めている。高齢化の進展等により、税収構造が法人税が少なく個人住民税と固定資産税に頼る町

財政は極めて厳しい状況になるものと思定され、自ら活力あるまちづくりを積極的に推進していかなければ、財政状況の好転は望めない。

国民健康保険について

問 後期高齢者医療制度の導入にかこつけて色々な医療制度改革がされたが、国民健康保険特別会計に与える影響について何う。

町長 国の医療制度改革は、予防医療により医療費を減らす事を目的としている。特定健康診査が保険者に義務付けられ、これに要する健診費用の追加負担もあるが、平成20年度予算は保険税率を引き上げずに予算編成ができた。

防災対策について

問 国も学校施設については、補助金の率を引き上げて早急に耐震改修をとるという動きがある。そういう期を機敏に捉えて学校の耐震化を進めて欲しい。

町長 今年度、事業に着手する酒々井小学校屋内運動場建設が終了後、耐震診断結果に基づき、優先順位を付けて、計画的に実施していきたい。

## その他の質問

御園生活士 議員

- ・ 南部地区新産業団地事業について
- ・ 酒々井インターチェンジ事業について
- ・ 町の組織改革について
- ・ 学童保育について

平澤昭敏 議員

- ・ 給食費について

地福美枝子 議員

- ・ 学童保育について

齊藤 博 議員

- ・ 介護保険計画について

佐藤修二 議員

- ・ 町体育館の補修について

竹尾忠雄 議員

- ・ 食と農のあり方が今問われている農業、食糧問題について
- ・ 下岩橋地区の排水路改修について

# 県内の調節池を視察



大柏川第1調節池

町議会では、7月8日(火)に都市型水害の治水対策として設置されている、長津川調節池(船橋市)、大柏川第1調節池(市川市)をそれぞれ視察

しました。県の担当者より調節池の概要など説明を受けた後、調節池の状況を確認しました。

長津川流域は宅地開発の影響を受け、浸

水被害がたび

たび発生して

いましたが、

5ヶ年計画で

河川改修と調

節池の工事を

施工したこと

により、以前

の様な被害は

発生していな

いとのこと

です。

大柏川第1

調節池は、地

元住民と行政

が一体となつ

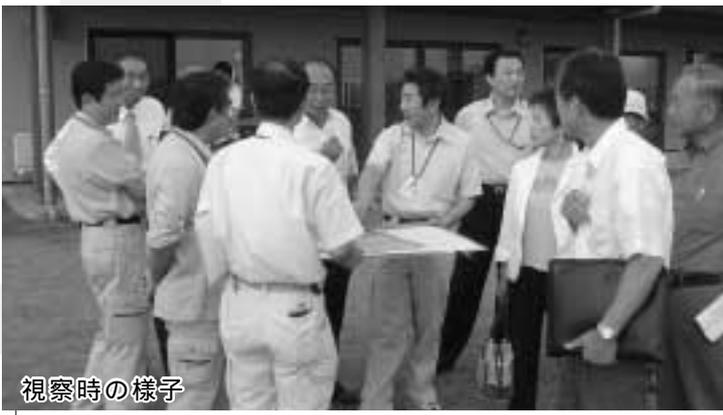
て、水辺の自

然を活かした

調節池の整備

方針をまとめ

るとともに、市民との協働により、利用や管理の方法を含めた細部の検討を行い、これらの検討結果に基づいて調節池の整備が行われたとことです。



視察時の様子

調節池は、降雨時に洪水を一時的にためることによって、雨水が川へ流出する量を減らし、はん濫を防ぐ重要な役割をします。

大柏川第1調節池は、自然環境創造型の調節池として柵池が造成されるとともに、周りには遊歩道、ポケットパーク、草原広場、ビジターセンターなども整備され、自然とふれあえる場所として市民に利用されています。

## 酒々井小100周年 ふれあい集会



北の湖部屋の北桜閣、付き人の宮丸さん、翔皇さんを招いて6月6日に酒々井小学校100周年ふれあい集会が開催されました。相撲体験教室などを通して、国技である相撲に対する興味・関心を高めるとともに、子どもたちの健康・体力づくりの意識の高揚を図りました。また、ふれあい集会前には役場へ来庁され、小坂町長、高崎議長を表敬訪問されました。

## 9月定例会のお知らせ

次の定例会は9月上旬に開会する予定となっております。

会期の概要は、8月26日の議会運営委員会で決まります。会期などについては、議会運営委員会の開催日以降、議会事務局までお問い合わせください。

なお、会期の概要が決定したら、町議会のホームページやポスターでもお知らせしていきますのでご覧ください。皆様の傍聴をお待ちしています。

詳しくは議会事務局まで。

☎ 496 1171

(内線251、252)